びぶりおてか

同志社大学図書館報 *No.* 9. 1971. 7. 1

大学の心臓部

―図書館の再認識―

吉田貞夫
文学部教授

近代的大学図書館に要求される条件は数限りなくあります。新しい有機的械能を発揮するための近代的な図書館の建物の問題。激増する資料や情報と情報提供。サービスの問題。高度の情報奉仕に貢献する主題別スペシャリストの養成問題。データー・プロセシングのための図書館のオートメ化の問題。新しい機構のもとにおける運営管理の問題。――など枚挙にいとまがありません。まがりかどに立つ大学図書館のはらむ問題の中で，専門職としてのライブラリアンのアカデミックな職責や図書館の機械化の問題――すなわち，人と機械の問題，および資料収集の集中専門化の問題にふれてみたいと思います。図書館は静的建造物ではなく，かのランガナターンが，「図書館学の五原則」の最後の章で述べているごとく，〝図書館は生成発展する有機体〟であります。この動的有機体には，ボディとブレーンと，その活動源たる血がなくてはなりません。

図書館員の中でも，特定分野の図書の整理や参考業務にたずさわる司書を，主題専門家と呼んでいます。主題専門家は主題分野の学士号をもち，その分野の豊かな経験をもっていることが期待されます。主題専門家（Subject Specialist）は，大学図書館活動の面で重要な役割をはたすわけですが，特に図書その他の記録資料の選択，目録作業，分類作業，およびレファレンス・サービスに従事いたします。主題専門家の獲得については，特に自然科学，技術工芸，医学，法律学などの分野では，なかなか人をうることが容易でなく，これらの分野をもカバーできる司書を，人文科学系の図書館員の中から養成せざるをえないのが現状であります。機械の導入によって図書館は以前に増してより高度の主題専門家を必要としています。そして専門家として有資格者を獲得するためには，その地位の保証問題が必然的に生じてまいります。

大学の教育課程の改革と発展にともない，図書館は新しい種類の資料を収集し，利用者の利用に供するためには，各分野の専門家を必要といたします。情報の洪水の中で，迅速に適確な情報のソースを提供する任務がかせられています。

図書館の資料が増大すると，司書は，整理課という一室にとじこもって，利用者から分離される傾向が強まり，ひいては司書と利用者の分離は，利用者へのサービスの低下をきたすおそれが生じます。これを改善するために，十数年前から図

書館の奉仕面が強調され，図書館建築や組織の面からいろいろ工夫がこらされ，閲覧室と参考業務部門に，主題専門家を配置する努力が払われてまいりました。また分類や目録の複雑さも増加してまいりましたし，一方文献の要求量も急増しました。従来の大学図書館では古典や語学の知識があれば，図書整理の大体の仕事はできたのですが，複雑にして厖大な情報資料のソースを発見し，その情報経路に通じ，求める情報を含んだ一次資料や二次資料を検索するためには，各主題の専門家を雇わざるをえなくなってまいりました。大学図書館の奉仕部門にはレファレンス部門と情報部門に重点がおかれるべきで，従来のテクニカルサービス偏重主義から脱却しなければならないでしょう。大学図書館では，インフォメーション・デスクがあり，学部学生の質問に答えてくれる専門の閲覧係がいますが，ここでいう主題専門家は，閲覧係としてではなく，遙かに高度の専門職を担当すべきであります。たとえば利用者の要求に応じて，各分野の書誌や抄録を作成するでありましょうし，また，このような書誌的サービスの他に利用者の不確実な資料検索知識を補って，書誌的ツールの利用方法を指導してくれるでありましょう。また，専門分野の資料案内や各主題分野の文献リストの編集，出版の業務も担当することになります。しかし，大学図書館では，学生のために書誌を作成することは通常考えられないことで，むしろ学生自身が自分の研究のために書誌を作成する点に教育の意義が認められるのですから，むしろ主題専門家はその指導と援助にあたるべきであります。

主題専門家は，専門分野の研究のみに専念する学者や研究者のために，研究分野とその周辺の領域の参考文献リストを継続して作成することが大きな任務の一つであります。専門的訓練を受けた有能なレファレンス・ライブラリアンは図書館の蔵書に関するかぎり，どの教授よりもよりよく知っていますから，学生や教授の受ける恩恵は測りしれないものがあります。ある特定の問題についてどんな資料があり，どこを探したらよいか，どの本から読みはじめたらよいか，また，どの資料が重要であるかなど，多くのことを専門員から学ぶことができます。その上各専門分野のレファレンス・ライブラリアンの援助と協力をうけることによって，貴重な研究時間を節減することができます。図書館員の職業意識の向上と専門的教育と訓練が，どれほど大学の教育と研究の助長発展に貢献しうるかは，この道の先進国のすぐれた見本をみれば容易に理解できます。欧米では修士号だけでなく博士号も出す図書館大学院がその数を増してきましたが，この分野の学生は，高度の図書館技術と知識を修得することが要求されています。まず，学部で専門科目を専修し，大学院の課程で図書館学を専攻するのですから，学究的なライブラリアンとしての実力と意識を身につけています。従来は図書館員とは図書の管理人とみなされる傾向が強かったことは事実ですが近代的なライブラリアンは，大学の研究と教育に参画するいわゆる準教授的地位にあると考えてよいでしょう。また，それだけの資格を要求されているわけです。

厖大な量の出版物をどの大学でも購入するわけにいかないでしょうから，図書館ごとに専門分野を分担して，各大学ごとに資料の重点的収集を考えてはどうでしょう。アメリカで誕生いたしましたいわゆる「ファーミントンプラン」によれば，たとえば，ヨーロッパで出版された図書を網羅的に購入し，多くの大学図書館で重複しないように，専門分野別に集中的に収蔵する方法がとられています。どの大学でも，絶対必要とされる図書や雑誌が当然あるわけですが，また一方，一つの大学図書館ですべての資料を収蔵することは不可能ですから，各大学図書館で専門分野に従って，資料収集の分業をはからなければならない時代に到達しているといってもよいでしょう。そして，この実現は，地域制と専門分野制の大規模な組織のもとで可能になります。しかも，大学間の相互協力体制が樹立されることが先決問題でありますが，このような総合体制の確立となりますと，日本人の国民性の欠点が暴露されてまいります。

ここで図書館の機械化の問題を展望することにしましょう。一つの例としてアメリカのマサチューセッツ工科大学（ＭＩＴ）では，補助図書館なるセンターを十年計画で設立し，コンピューターのネットワークを確立して情報交換と情報の蓄積システムをつくっています。コンピューターの導入は現在では，銀行や保険会社では常識とされていますが，大規模な大学図書館でも図書館の機械化に立ちおくれるようなことがあれば，将来図書館の作業能率が著しく低下するおそれが生じるでしょう。それでは図書館の機械化はどのような面で実施されるかを考えてみます。

(1) 新しい資料の収集，逐次刊行物の受け入れ，目録の作成と整理業務。 (2) 蔵書管理，貸し出し業務，蔵書点検の記録，リザーブ資料の管理。 (3) 資料検索手段。 (4) 複写資料の作成と遠隔地にたいする情報の電送。などが挙げられます。

図書館のオートメ化といっても，小規模な図書館ではかえって非経済的であり，また能率を低下させることになります。つまり，機械よりも人間の方が能率的であることを立証しています。しかし規模が増大し，資料の数量がある限界を越えると，図書館の性質と奉仕面に大きな変化をもたらし，利用者側では求める資料の探索発見度が低下し，図書館側では資料検索の手がかりを記憶することが困難になります。そして次第に利用者と図書館員が遊離して，図書館の真の価値を喪失することになるかもしれません。図書館の収蔵する資料は，大規模図書館では，人間力による資料管理技術では到底処理しえないところまで急増しています。人間力による処理であれ，機械力による処理であれ，現在では実に複雑な処理方法や管理方法が求められています。

利用者から指適されて，ある資料が紛失していることをはじめて知ったり，貸し出し中であることがわかったりすることがよくあります。そして，利用者の求める資料が館内に一時見当らないようなケースが屢々あります。資料の量が少ない場合は経験豊かな資料マンによって見当らない資料の所在が直ちに判明するでしょうが，資料の数量が増大すると，人間力だけでは資料の管理運営を迅速適切に行うことは不可能になります。ここで，工学的なコントロール・システムが要求されるわけで，資料管理上のフィードバックが常に行なわれていなければなりません。大規模な大学図書館がその価値と利用性を維持するためには，機械力を活用した方が経済的であります。もっともこれは長期的な展望によるものであり

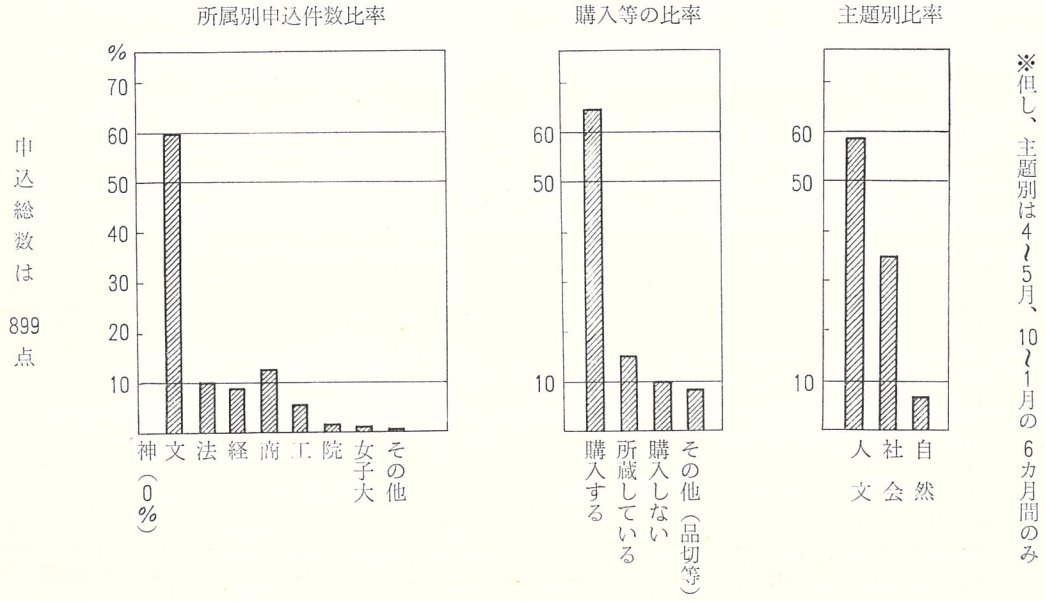
ますが，機械の導入によって図書館員は失業するかもしれないという考えは正当ではありません。それどころか，ますます専門職としてのスペッシャリストの需要がふえ，機械はあくまで人間の下僕として奉仕するでありましょう。急速な機械化を妨害する問題もありましょうが，これらの基本的問題点は次第に解決の糸ぐちを見出し，ひいては近い将来において，大規模な大学図書館は多くの業務にデーター・プロセシングの技術を導入せざるをえなくなります。図書館の現場で日常機械的な無味乾燥なルーティーンワークにたずさわっている図書館員の中で，真に人間的な知的労働，すなわちインフォメーション・スペシャリストないしはドキュメンタリストとしての専門知識と技能を発揮したいと念願している人がいかに多いことでしょう。世界的視野に立って，現在は大学図書館の転換期にあります。大学図書館の発展向上がすなわち大学の前進に直結しています。一大学の価値はその大学の心臓部である図書館をみればわかります。古今東西の有名大学の図書館を瞥見してみて下さい。我が同志社大学図書館も今やまがり角に立っているのではないでしょうか。人と機械と組織の問題を一日も早く改善しなければなりません。そしてこのことは全同志社人の問題です。

昨年度の希望図書購入について

図書館では，学生諸君の要求，特にどんな本をおいてほしいのかをしるために各閲覧室に投書箱と「希望図書購入申込票」という用紙をおいています。申込は相当多数にのぼっていますが，まだしらない人もかなりいるようですから紹介をかねて昨年度の状況をおしらせします。

申込総数は，昨年一年間で約900点です。そのうち購入したものは65%，580点ですが，品切，絶版等で入手不可能なものが約9%，すでに図書館にあるのに気ずかずに申込んでいるのが約15%強ありますから，それらをさしひくと実際には希望の90%は要求に応じていることになります。又購入点数は580であっても一点で2冊以上からなるものがかなりありますから，冊数は千数百冊になります。申込の学部別内訳をみると文学部が全体の過半数で60%（540件）をしめ，圧倒的に多い。そのため内容別でみても，人文科学が約60%，社会科学が35%，理工学関係が5%となっています。今年度は文学部以外の学生諸君や大学院生の諸君も積極的に希望図書の申込をして下さい。

希望図書購入申込の年間統計（70.4.1～71.3.31）



国文学関係の文献目録について

今回は国文学関係の文献を紹介します。

非常に広い範囲を含む為，個々に区分されているものは省いて，できるだけ包括的・一般的なものとし，主として本館所蔵のもので，昭和以後刊行されたものをとりあげました。個々のものについては下記文献を参考にして下さい。

〔1〕 書 目・解 題

1．**書目集覧　2冊**　禿氏祐祥編
東海書房　昭和3～6年（旧015.1；T 3）
上巻は「**寛文書籍目録**」（寛文9年頃開板，同10年増修開板）・「**元禄書籍目録**」（元禄5年開板）を，下巻は「**享保書籍目録**」（享保14年開板）・「**宝暦書籍目録**」（宝暦4年開板）・「**明和書籍目録**」（明和9年開板）をそれぞれ翻刻所収。

2．**国文学書目集覧**　垣内松三・毛利昌共編
明徳堂　昭和5（旧016.81；K 3）
前編：国文学の方法大系　後編：国文学書目集覧に分れ，後編に於て奈良時代～徳川末期間の書目について文学史的に解題。巻末に国文学に関する叢書目録・国文学史書目・年表・辞書一覧・書名索引等を付す。

3．**日本文学書目解説　9冊合本**　（岩波講座日本文学）
岩波　昭和7～8（旧016.81；O3）
大和時代上・下　平安時代上・下　鎌倉時代上・下　室町時代　上方・江戸時代上・下に時代区分して主要書目を解説し，参考書をあげている。索引がない為，検索はしにくい。

4．**日本文学書誌**　石山徹郎編
大倉広文堂　昭和9（図書館なし　国文研）

5．**国文学書史**　佐藤良二　佐藤一三共編
厚生閣　昭和9（旧016.81；S）
大和時代より室町時代までの主要な書目について通誌（成立）　本文（諸本）　研究（註釈）に分け解説。索引はない。

6．**日本文学講座　第17巻　年表・書誌編**
改造社　昭和10（旧810.8；K16）
上代～明治　大正時代文学書誌ならびに国語学書目解題，日本文学年表。書誌は書名を掲出して解説。

7．**本朝書籍目録考証**　和田英松
明治書院　昭和11（旧015.1；W）　昭和45　影印本（新025.1；W）

8．**明治文学書目**　村上文庫　村上浜吉
昭和12（旧016.81；M 3）
村上文庫蒐集所蔵約3万冊の書目。

9．**明治文学研究文献総覧**　岡野他家夫
富山房　昭和19（旧016.81；0-2）
明治文学研究の重要文献を類別し，主要文献に解題を付す。

10．**図書寮典籍解題　文学編・続文学編**　宮内省書陵部編
養徳社　昭和25～26（新029.3；K-2）
宮内庁書陵部（旧図書寮）が，図書展示会に出陳した国文学関係図書の解題書目録である。第一部は勅撰和歌集，歌学歌論，私家集，物語，源氏物語，日記紀行，年中行事，第二部は万葉集，私撰歌集，歌合，古今伝受，連歌。各項目毎に総説および細目についての解題，巻末に50音順排列の索引がある。

11．**日本文学講座　第8巻**
河出書房　昭和26（旧810.8；N 9）
日本文学研究法，日本文学研究文献解題，日本文学年表に分れ，研究文献は一般および時代別に主要な文献をあげて解説。

12．**文学・哲学・史学・文献目録Ⅰ　日本文学編**
日本学術会議編　昭和27（新028；N）
昭和20年9月から25年12月迄に発表された文献を網羅的に収録　巻末に事項索引，人名索引がある。

13 **国文学国語文献解説 —奈良時代～徳川末期—**
毛利昌編　有朋堂昭和28（旧016.81；M 5）
②の後編「国文学書目集覧」を独立刊行したもの。

14．**国語国文学論文総目録—昭和20年8月～28年7月—**
斉藤清衛編　至文堂　昭和29（旧016.81；S 3）
昭和20年8月15日より，28年7月31日迄に発表，刊行された公表論文の題目を類別したもので，単行本は主要と思われるものを収録。附録に「論文表題細目表」と「採録雑誌一覧」がある。

15．**日本文学研究法**　斉藤清衛
河出書房　昭和31（旧817.7；S）
近代以前の文学についての研究法を主眼に書かれたもので，総頁数の約半分の150頁が主要作品の参考文献目録となっている。

16．**日本文学研究入門**　麻生磯次　守随憲治編
東京大学出版会　昭和31（旧810.7；A）
各時代毎に代表的な著作や論文をあげながら従来の研究成果を展望したもの。各項毎にくわしい参考文献がある。

17．**国文学研究書目解題**　麻生磯次編
至文堂　昭和32（旧016.81；A）
上代より明治迄の日本文学に関する研究書約2000点について解題。一般，上代，中古，中世，近世，近代の順に大別し，各項を更にジャンルによって分類排列している。

18．**国史文献解説　正続**　遠藤元男　下村富士男編
朝倉書店　昭和32～40（新028.21；E）
「びぶりおてか」No.4参照

19. **国語国文学研究史大成**　全国大学国語国文学会研究史大成編集委員会　昭和34―（新910.7;K）
個々の作品，事項，作家等について研究史の概説をあげると共に，主要な研究文献は原文を掲げて解説し，原文を掲げない文献をも広く目録し解説。年表，索引を付す。

20. **国文学国語学論文目録**　附単行本一覧　国語研究編集部編　白楊社　昭和34（図書館なし）

21. **日本文学研究必携　古典篇**
岩波全書　昭和34（旧810.2;N2）
各項目毎に参考文献を列挙。人名，書名，事項，雑誌発行所索引がある。入門書誌。

22. **群書解題　第1―22巻**（30冊）
群書類従完成会　昭和36―42（新025.1;G）
「びぶりおてか」No.7参照

23. **Japanese Literature in European Languages; a bibliography.**
Japan P.E.N. Club. 1961.（新028.91;N2）
日本文学の英訳されたものの詳しいリスト。著者別，作品別索引がついている。

24. **国語国文学研究文献目録**　東京大学国語国文学会編
昭和38―〔年刊〕至文堂（新028.81;K）
毎号過去一年間の国語学・国文学研究文献の目録として編纂され，昭和38年度以降については最も充実している。雑誌紀要論文目録・単行本解説の二部より成り，巻末に著者索引。

25. **国書総目録　1―**　岩波　昭和38―（新025.1;K）
「びぶりおてか」No.7参照

26. **近代文学論文必携**　岩城之徳等編
学灯社　昭和38（旧810.7;I）
299～310頁に「**近代文学書誌案内**」があり，文献検索の手引きとして便利である。

27. **日本文学研究入門　新版**　成瀬正勝　市古貞次編
東京大学出版会　昭和40（910;NaM　新町読書室　本館再整理中）
研究の現段階を解説したものであるが，自ずと作品自体の解説的記述をも含む。各項に参考文献。

28. **古典文学研究必携**　市古貞次編
学灯社　昭和42（新910.3;K）
「**国文学解釈と教材の研究**」9巻8号を訂正増補の上刊行されたもので，附録に「**古典文学書誌案内**」「**国文学関係雑誌・紀要案内**」（同10巻8号に収載）がある。

29. **文科系文献目録　21**　日本文学篇
日本学術会議第一部編　昭和45（新028;N2）
12に続くもので，昭和26年から29年迄の単行書，雑誌論文を収録。

30. **国史大系書目解題**　上巻　坂本太郎　黒坂昌夫編
吉川弘文館　昭和46（入荷中）
「**国史大系**」（旧910.8;K2）に収載された57書目についての詳しい解題，それぞれの解題の後に参考文献のリストがある。上巻は「日本書記」以下27書目。

31. **現代日本文芸総覧**　小田切進　全3巻
現在2巻まで　明治文献　昭和44―（新028.91;O）
文芸・思想関係の数多くの雑誌の中から，主として大正・昭和期（20年迄）の最も重要と思われる雑誌約140誌を選んで細目を編み，解題を付したもの。
巻末に人名・資料索引。

〔2〕索　引

32. **国語国文研究雑誌索引**　京都帝国大学国文学会編
星野書店　昭和8（新P910.1;K4）
雑誌「**国語・国文**」第3巻臨時増刊で明治以来昭和3年迄の論文索引で，約400種の雑誌から国文学年代順，国語学，伝説，有職故実，歌舞音曲，文学地理，神祇釈教，文芸，書史，雑等の順序に排列されている。巻末に昭和4～6年の3カ年分を補足。

33. **雑誌記事索引**　人文・社会編
国立国会図書館　月刊（新P027;Z）

34. **日本古典文学大系総索引**　別巻1～2
岩波　昭和39（新918;N）

35. **国語と国文学　―分類総目録―**　東京大学国語国文学会編　至文堂　昭和40（新P910.1;K2）
雑誌「**国語と国文学**」創刊号より第500号に掲載された論文，書評，紹介を内容に従って分類・排列し，特輯号一覧並びに執筆者索引を添えたもの。

36. 「**国語国文の研究**」（1号～49号）
「**国語国文**」（1号～380号）
総目録・索引　京都大学国文学会　臨川書店　昭和41（新P910.1;K5）

37. **新版日本叢書索引**　広瀬敏
名著刊行会　昭和44（新027.4;H）
文献がどの叢書に収められているかを検索するもの。

〔3〕辞典・便覧・年鑑・年表

38. **国文学研究辞典**　鷲見寿久
明治書院　昭和36（旧810.2;W）
上代より近代迄の日本文学を詩歌，散文，演劇，国語，歴史，叢書目録に分け解説。普及版に「**国文学の六法全書**」がある。

39. **増補改訂日本文学大辞典**　藤村作編
新潮社　昭和42（新910.3;N―1a）
日本文学全般にわたる基本図書。

40. **国文学便覧**　志田延義編
至文堂　昭和35（旧810.2;S2）
文献編，事項編57項に整理して巾広く収録。

41. **国語国文学年鑑**　久松潜一編　3冊
靖文社　昭和14～18（旧810.5;K）
昭和13～15年間に出版された研究書の解説。

42. **文芸年鑑**　日本文芸家協会編
新潮社　昭和6―（新910.5;B）
文芸各部門の記録の外，各種文献目録日本文学の外国語訳一覧等々。

43. **改訂新版日本文学史**　第6巻　総説年表　久松潜一編
至文堂　昭和39（新910.3;N―1a）
非常に詳細な年表，索引によって年表中の事項・人名を検出出来るので便利。

44. **定本限定版現代日本文学全集　別巻3　月報合本**
筑摩書房　昭和42（新918.6;G2）
作家別研究文献目録として，現在最も広範囲で詳細なもの。

その他，雑誌要目を調べるには「**国語と国文学**」（新P910.1;K2　月刊）に，学界展望は「**国文学解釈と鑑賞**」（新P910.1;K3　月刊）　主要雑誌紀要論文は「**国文学解釈と教材の研究**」（新P910.1;K　月刊）に，各大学学会紀要掲載論文要旨については「**季刊文学語学**」（新P810.1;B）にそれぞれ継続掲載されています。

同志社大学図書館の歴史（その5）

新図書館の建設 —1—

湯浅吉郎

1912（明治45＝大正元）年5月，従来の同志社専門学校および神学校は専門学校令による〝同志社大学〟と改称，はじめて〝同志社大学〟が誕生することとなり，その結果やむをえず，図書館（現在の有終館）の全部を政治経済部の教室に転用することとなった。そして所蔵図書は三つに分けられ，政治経済部関係の図書は図書館の3階に，神学部関係の図書は神学館（現在のクラーク記念館）の1室に，それ以外の一般の図書は理化学館1階西側の二つの部屋にそれぞれ移されたのである。これは，やむをえない臨時の処置であって，前回にも述べたが同志社の当局者は図書の置き場所のみではなく，読書の設備，すなわち閲覧室についてもその不完全なことを遺憾としていたのであって「我大学生活の中心なる可き図書館新築の事は吾人の速かに着手せざる可からざる所なりとす」（大正2年同志社年度報告）と考えて，新図書館の計画を急速に具体化させるため理事会は1914（大正3）年7月，新図書館建設のことを正式に決定するとともに湯浅治郎（永年，同志社理事としてその発展に主として財政面で尽力した），西尾幸太郎（平安教会牧師で日本組合教会の重鎮），ロンバード（Frank A. Lombard：同志社在勤宣教師で4分の1世紀にわたり英文学を講じて後進の育成に努めた），湯浅吉郎（京都府立図書館長，同志社図書館顧問）の4氏を図書館建築委員に任命して建築計画の立案に当たらせた。これら委員のうち湯浅吉郎は1885（明治18）年，最初の正式の同志社神学校卒業生で，卒業後渡米，オベリン・エール両大学に留学し，旧約と古代語を専攻，帰朝して同志社の教壇に立ち，同志社を辞して一時は平安教会牧師となったこともある神学者で，また〝半月〟の号で知られる新体詩の作者としても著名である。しかし，京都大学付属図書館の草創期にその整備に関与し，1902（明治35）年には再度渡米してシカゴ大学の図書館学校などで図書館学を学び，翌1903（明治36）年帰朝，京都府立図書館長に就任し，また明治末年からは兼ねて同志社図書館の委員長として，その近代化に尽力していた図書館の専門家でもあったのである。

この図書館建築委員会は早速，当時の洋式図書館建築として著名な南葵文庫（1902＝明治35年新築）大橋図書館（同上），大阪府立図書館（1903＝明治36年新築）などの様式，構造を調査研究して新図書館建築計画を検討の結果，1914（大正3）年9月には成案を作製して理事会に答申した。これに基づいて同年12月理事会は第1期の建築費を12,000円とし，東寮の南に書庫40坪を新築することとし，その内部に仮の閲覧室など図書館として必要な施設を設けることを条件に建築一切を図書館建築委員会に一任することを決定した。そこで，翌1915（大正4）年2月20日着工，丁度7カ月後の同年9月，日も同じ20日に竣工した。これがすなわち現在〝旧書庫〟と通称されている図書館本館の北に接続した建物である。

47.18坪（約156㎡）鉄骨煉瓦造り4階建てで，設計はヴォーリス（William Merle Vories：宣教師として近江八幡に在勤の建築技師で，近江兄弟社の創立者，のち帰化して日本名を一柳米来留と称した。なお Doshisha College Song の作詞者でもある）によるものであるが，第二期工事として本館舎の建築を予定し，それまでの間，一時的にもせよ閲覧室などを設けることが必須条件であったために書庫建築としては特異なものとならざるを得なかった。そして，竣工10日後，すなわち1915（大正4）年10月1日には開館式を挙行したのである。その内部は東側約3分の1を書庫とし，1階には新聞雑誌を，2階には神学部と政治経済部および英文科の図書を，3階には一般図書を，4階には和装・唐装の図書を収めた。これら蔵書はさきに各所に分置されていたものを引き取ったもので，当時の蔵書総数は約35,000冊と記録されている。書庫の部分を除いては1階を新聞雑誌閲覧室，主任室および受付室とし，2階を大学研究室（約40席の研究読書室）に，3階を約42席の普通閲覧室と事務室にあて，4階は中央部は3階と吹き抜けで西側に小部屋を設けて，小会合室として臨時のものながら一応図書館としての諸施設を整えたのである。

実例を中心とした

資料の探し方 —1—

まえがき

図書館のカウンターには毎日のように，カード目録のひき方が分らないとか，「キネマ旬報」の既刊号（バック・ナンバー）は揃っているかなどというような質問から，サン・テグジュペリ Antoine de Saint-Exupéry の "Le Petit Prince" の出版社と出版年を調べたいという調査を必要とする質問まで種々の質問が寄せられています。図書館ではこうした利用者の求める資料を図書館員が仲介して提供する業務をレファレンス・サービスと呼んでいます。

今回から図書館への数多くの質問の中から，そのいくつかを紹介しつつ，あわせて，回答に必要とした資料の紹介をしていきたいと思います。利用者の皆さんが必要な資料を見つける場合の参考にしていただければ幸いです。

1. カード目録（著者目録）から次のことも探せます。

問 マルクスの資本論の入門書にはどんなものがありますか。

答 著者目録でMarx, Karl のところを調べると分ります。次の4点があります。
越村信三郎「新訂図解資本論」（㊫331.6;M—7）
宮川実「資本論講義　全5冊」（㊫331.6;M—6）
大島清「資本論への道」（㊫331.6;M—19）
宇野弘蔵「資本論入門」（㊫331.6;M—21）

問 漱石について書かれたものを読みたいのですが，どんな本があるでしょうか。

答 新分類の著者目録だけで17点あります。この他に旧分類にも沢山あります。自分で調べてみて下さい。

上の2つの例でわかるように，著者目録ではその人の著作はもちろんですが，それ以外に，その人について書かれたもの——伝記，作家研究，作品研究等も調べられるようになっています。即ち，カントのところには，カントの作品と，他の人が書いたカントに関する研究の両方が出てきます。実例を次に示しておきます。

イマヌエル・カント著「道徳哲学原論」
イマヌエル・カント著「カント全集」
天野貞祐著「カント哲学の精神」
ボロウスキー著「カントその人と生涯」
岩崎武雄著「カント『純粋理性批判』の研究」

2. 見たい本の書名がはっきりしないとか，著者出版社がわからないとき。

問 ベイントン著の「キリスト者の戦争と平和に対する態度」の正確な邦訳タイトルを知りたい。（商学部2年）

答 Bainton, Roland H. 著「Christian Attitudes toward War and Peace」の正しい邦訳は「戦争，平和，キリスト者」で中村妙子翻訳，新教出版社より出版されています。

問 1958年旺文社より出版された図書で"Japanese Life and Culture in the Meiji Era" の著者が Keizo, S. となっているが誰れのことでしょうか。（職員）

答 出版年鑑及び全日本出版物総目録を調べましたが，後者の昭和33年版（P.304）によりますと，Keizo, S. は渋沢敬三と思われます。なお，上記図書は当館に所蔵しており，請求記号は㊥917;K13　第5巻です。

問 Niebuhr, Reinhold の Moral Man and Im-moral Society の邦訳が昭和35年に出ているが，その出版社と訳者を知りたい。（教員）

答 1961年版「出版年鑑」によると「世界大思想全集」第2期30巻（㊥080;S3v.2:3）に収められており，高木誠，武田清子の訳で〝道徳的人間と非道徳的社会〟という表題で河出書房新社より出版されています。

このような図書についての質問は，カウンターでも利用者からよく聞かれるものです。図書館に所蔵している資料は，備付けのカード目録を調べれば出版社，出版年などは分かるわけですが，所蔵していないものについては，やはり別の抱括的な資料を調べなければなりません。次にあげるものはその最も代表的なものですので簡単に説明しておきます。

戦後国内で出版されたものを調べるには「**全国出版物総目録**」（㊫025.1;Z）があり，昭和23年より国立国会図書館が法に基づいて作成しているもので，現在では毎年同館に収められる新刊書と国内刊行物を極力調査して収録しています。

この「全国出版物総目録」の速報として「**納本週報**」があり，国会図書館に収められた国内の出版物の網羅的な週刊速報です。特に官公庁の新刊書を速く広く知るのに役立ちます。

「**出版年鑑**」（㊫025.1;N）は毎年の新刊，重版の市販図書と雑誌の目録を主としてまとめた年鑑で，「全国出版物総目録」の刊行がおくれるので，毎年前年の市販出版物を通覧するのに必要です。

この年鑑にのる新刊書のみを旬刊で速報するものに「**出版ニュース**」があり，新刊書を日本十進分類法で分類し，著者，書名，規格，ページ数，定価，発行所を記しているものです。

戦前のものを調べる場合には伝統ある大図書館の目録を見るのも一つの方法です。明治以前のものを調べる場合には岩波書店編「**国書総目録**」（㊫025.1;K）（続刊中）が適当です。

3. 雑誌の記事を調べたいとき。

問 1968年4月以降の雑誌「世界」および「朝日ジャーナル」に掲載された西村秀夫の東大紛争についての論文，もしくは座談会記事を見たいので調べてほしい。（経済学部4年）

答 「世界」における西村秀夫の論文は「世界」1968年9月号に〝東大紛争の意味〟が見られ，「朝日ジャーナル」1968年4月28日号に〝焦燥と不安を越えて〟という論文が見られます。

問 作田啓一著「恥の文化再考」が雑誌「思想の科学」に掲載されていたと思うが何号にあたるのか。（職員）

答 「思想の科学」第25号（1964）に掲載されています

問 高坂正堯著「海洋国家と日本の構想」は雑誌「中央公論」の第何号に掲っているか。（法学部4年）

答 「中央公論」第79巻9号（P48—80）に掲載されています。

上記の質問のように雑誌の記事を調べたい場合，特定の雑誌に載っているのがはっきりしているならその雑誌の総目次を見ればよい訳です。図書館では利用度の高い雑誌についてはカウンターに総目次を揃えていますので利用して下さい。

また本誌でも毎度のように説明されている雑誌記事の総合索引として我が国唯一の国立国会図書館編「**雑誌記事索引**」（㊫027;Z）があります。

これは国内で出版している学術雑誌を中心とした和雑誌に掲載されている論文記事の月刊索引誌です。人文・社会編と科学技術編とがあります。また著者から索引出来る年間著者名索引が1965年から別冊として出版されているので特定の著者の雑誌論文を調べるときには便利です。このような記事索引には主題を限定した専門別索引誌（たとえば「**邦文法律雑誌記事索引**」，「**経済学文献季報**」など）があります。

4. 外国文学の邦訳を探したいとき。

問 アナトール・フランスの短篇〝アベイユ姫〟の邦訳を見たい。（文学部2年）

答 「明治・大正・昭和翻訳文学目録」によると〝アベイユ姫〟の邦訳は市原豊太訳「アナトール・フランス短篇小説全集」昭和25年　白水社（㊫836;F2—7）の第1巻に収められています。

問 T.S.エリオット著「寺院の殺人」の邦訳はありますか。（文学部4年）

答 「明治・大正・昭和邦訳アメリカ文学書目」（㊫028.93;F）によりますと新潮社版「現代世界文学全集」第26巻T.S.エリオット篇に収められていることがわかります。

問 Thomas Hardy "The Woodlanders" の作品研究のために昭和15年河出書房版「新世界文学全集」第10巻　織田正信「森に住む人々」を探しています。別にこれでなくても同作品の訳本であればよい。（文学部　3年）

答 国立国会図書館編の「明治・大正・昭和翻訳文学目録」によると日本で "The Woodlanders" が翻訳されているのは「新世界文学全集」第10巻に収録されているものだけです。なお新しく出版された全集などの中にも見当りません。

外国文学の邦訳を探すには上記の回答で示している「明治・大正・昭和翻訳文学目録」「明治・大正・昭和邦訳アメリカ文学書目」がその代表的なものです。

国立国会図書館編「**明治・大正・昭和翻訳文学目録**」1959　は明治元年から昭和30年までに邦訳刊行された欧米文学作品の目録で，これには中国や朝鮮のものは全くはぶかれています。

福田なおみ編「明治・大正・昭和邦訳アメリカ文学書目」1968　は明治初年から昭和42年末までの100年間のアメリカ文学の邦訳，小説，戯曲，詩，評論，日記および〔古典的な〕児童図書，大衆向きの探偵小説を漏れなく収録しています。

これらの目録刊行後の邦訳文学を探す場合には「**文芸年鑑**」　日本文芸家協会編（㊫910.5;B）の〝おもな外国文学本邦初訳本リスト〟を参考にして下さい。また日本文学で外国語に訳されたものを調べるときには，「**Japanese Literature in European Languages**」日本ペンクラブ編　1961　があります。

故中瀬古六郎博士の蔵書寄贈について

昭和46年4月1日，同志社女子大学教授 中瀬古 和氏より，故 中瀬古六郎氏（中瀬古 和氏の厳父）の 蔵書（図書約2,600冊雑誌約4,700冊）の寄贈を受けた。寄贈図書のうち，主なものは下記の通りである。

図書の部

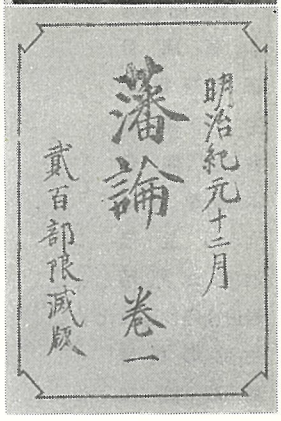
和蘭薬鏡
王充論衡
沖縄誌
十八史略備考
本草綱目
唐詩選書本
生理発蒙
舎密開発
本朝軍器考
列仙全伝
淮南鴻烈解
岩波講座物理及化学
生命の科学
爾雅註疏
大和本草
本朝食鑑
化学訓蒙
物理全誌
薬窓誌
大日本歴史集成
東洋歴史集成
支那人名辞典
化学構造と生理作用
医範提綱
内科撰要
扶氏済験遺訓
傷寒論輯義
四書集註
西洋紀聞
気海観瀾広義
周易参同契註
民国野史
大日本文明協会刊行書
史記
蘭方枢機
華夷通商考
布告全書
皇国名医伝
新撰姓氏録
文中子
新増日本年代記大成
博物新編
物理小学
十八史略
新講大日本史
抱朴子内外篇
満蒙講座
日本文化史
近世日本国民史
婦女鑑
幼学綱要
漢籍国字解全書
新撰大人名辞典
春秋左氏伝校本　5刻
Handbuch der organischen Chemie.
The century dictionary and cyclopedia.
Select notes on the international lessons.
Chemical Society.
The encyclopaedia Britannica, 11ed.
Encyclopaedia Britannica, 19ed.
Goethes Werke.

雑誌の部

生理学研究
物理化学の進歩
武田化学月報
舎密
我等の化学
国民衛生
東京化学会誌（日本化学会誌）
日本学術協会報告
化学評論
外来語研究
The journal of biological chemistry.
The journal of the American Chemical Society.
Industrial and engineering chemistry.
British chemical abstracts.
The Johns Hopkins alumni magazine.
The outlook.
Memoirs of the college of science.
ISIS.
International concialiation.
Bulletin of Yale University.
The Atlantic monthly.
Nature.
The national geographic magazine.
Journal of chemical education.
Chemical abstracts.
American chemical journal.
Berichte der Deutschen Chemischen Gesellschaft.
The mid-Pacific.
Journal of the Chemical Society.

ピック・アップ

坂本竜馬の「藩論」



同志社の文庫にあった坂本竜馬作と伝えられる貴重な文献「藩論」が，原本通り住谷・篠部奨学金出版会によって昭和44年5月に複製（百部限定）された。

明治紀元十二月　弐百部限滅版と記されている原本は住谷総長が昭和15.6年頃，四国の松山の夜店で発見され，現在，日本でたった一つのものであろうといわれている。藩論はとりもなおさず藩政の改革論であり，彼の「船中八策」（五箇条の御誓文の原型）とともに，百年前，彼が維新の志士というより，革新論者あるいは民主主義者としての彼の憲政想想が，これらを軸として展開されていることがうかがえる。

さて，本書の内容は小引（しょういん）（はしがき）と一新の総論と某藩臣その主への建白の抄書，それに始めて変革の基を開くの四章からなっている。昭和44年1月12・19日「夕刊京都」のサンデー談話室欄で，竜馬研究者として有名な川本直水氏（京都高知県人会々長）がそれぞれ漢文調のむつかしい文章を意訳紹介された。要点を拾ってみると，

小引では維新の大業はすでに完成した，次は藩の統治が大切だ，一新の総論では藩政改革の総論を述べ，痛烈な藩政批判――即ち百年前に民主主義改革論でもって思い切った刷新を図るべきだとし，某藩臣その主へ建白の抄書では世襲制度ほう壊せん，と一大変革に心構えをうったえている。そして四つ目の始めて変革の基を開く，では家格世禄ご破算，個人の能力で貴賤を分つべしと万民平等の旗じるしをかかげている。

その後，京都新聞夕刊紙上で〝複刻のねらいは「行動派の志士として知られている竜馬が，一面では偉大な思想家であったことを広く世間に再認識してもらうため」で日本近代史の源流が本書に求められるところから，この出版は学会でも高く評価されている〟とその意義の深かったことを載せている。

因みに，この原本そっくりの「藩論」は和紙，和とじ，カスレまでそのままで，表紙の文字の藍色も原本通りとした苦心の作，その複製「藩論」のあとに住谷先生が，とくに〝坂本竜馬と藩論について〟と題し，趣意ならびに解説が添えてある。

あとがき

"びぶりおてか"第9号をここにお届けいたします。

今回から，新らしい企画としてレファレンス関係をシリーズ的に掲載していくこととしました。資料探索の参考になれば幸いです。学生諸君の希望図書購入についての紹介をかねて昨年度の状況を概括的にまとめました。積極的な申し込みを望みます。

同志社女子大学教授中瀬古 和氏より故中瀬古 六郎博士の貴重な蔵書を多数御寄贈いただき衷心より御礼申し上げます。

"びぶりおてか"　同志社大学図書館報　No. 9.　1971年7月1日 発行

発　行　同志社大学図書館　京都市上京区今出川通烏丸東入　電話 211―2311

編集責任者　前川嘉門